

福岡県

「自分が住みたい」を具現化
女性経営者のこだわりホーム

「サザンⅡ」の昼食風景。料理をおいしく食べてもらうために、器にもこだわっている



有料老人ホームのニーズが高い福岡県。今回、大阪府に匹敵する160のホームがランキングの対象になったが、入居率は軒並み100%近い水準だ。数あるホームのなかで、異彩を放つのは、女性経営者がトップを務める二つの施設だ。介護型で6位になった「サザンⅡ」の運営会社ヘキサ・メディカ

ルの社長は、緒方令子氏。

「自分が歳をとったら入りたいホーム」(緒方社長)を目指し、一見相反する「低価格」と

「質の高いサービス」を実現した。最も安い8畳タイプは入居金50万円、月額利用料は7万8000円。介護保険の負担など追加の費用を度で事足りる。しかしサード

ている。昼食(500円程度)と、有田焼や伊豆焼などを考えた食材が並ぶ。365日、入浴も可能。設のように週2〜3回と

や追加料金はいらない。サザンⅡの施設は、医療法人おんた整形外科を母体に2001年に開設したグループホームの「サザン」。ここでは、月額利用料を12万円程度

に抑えたものの、払えない人がかなりの数に上った。地域が求める価格帯とズレがあったのだ。そこで、従業員や地域住民へのヒアリングを行って、はじき出した適正価格で、6年前にサザンⅡをスタートさせた。

質の高いサービスを維持しつつ、低価格を実現するのは容易ではない。まずは外部委託を徹底して排除。毎日、看護師や介護福祉士らがバケツとぞうきんを手にして各居室を回り、床拭きや水回りの掃除を行い、低コストを実現した。

医療面では、病院の総(看護)師長や師長などが夜や休日にボランティアで入居者の相談に乗るとともに、同ホームのスタッフの教

指導に当たる。反対する二つの目標を達成したⅡの入居待機者は、現在50人

に上っているという。

利用者側の発想が生きた
アビタシオン浄水

もう一つ、女性経営者が「自ら住みたいホーム」を実現しているのは、自立・混合型で1位の「アビタシオン浄水」である。



「アビタシオン浄水」は天神地区や博多駅にも近く、ショッピングや観劇など、都心の暮らしを楽しめる

ここは、百貨店が集まる天神地区まで約4分と利便性も高い都心型ホーム。芝居などの公演を行う博多座で娯楽のひとつを楽しむ入居者もいる。

建物は、高級マンションを思わせる重厚な造り。同ホームがある複合ビルには、七つのクリニックのほか、薬局、スーパーも揃う。

同ホームを運営する新陽の松本公昭営業部長は、他の施設との違いをこう語る。

「徘徊などが無い限り要介護認定者も一般居室に受け入れていること。このため、介護が必要になっても、他の施設に移らなくて済む」

現在、要介護認定を受けた27人が一般居室で過ごす。

じつは新陽の喜多岡陽子会長自身が、夫婦で系列ホームに暮らす入居者でもある。利用者側からの発想がアビタシオン浄水に生かされている。